

世 監 第 3 0 号  
令和3年8月31日

世羅町長 奥田 正和 様

世羅町監査委員 山口 敦允

世羅町監査委員 田原 賢司

令和2年度世羅町公営企業会計決算審査の意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和2年度公営企業の事業会計の決算及びその附属書類を審査した結果について、世羅町監査委員条例第6条の規定により、次のとおり意見を付して提出します。

# 令和2年度公営企業会計決算審査意見

## 第1 審査の概要

### 1 審査の対象

- (1) 令和2年度世羅町公営企業上水道事業会計決算
- (2) 令和2年度世羅町公営企業公共下水道事業会計決算
- (3) 令和2年度会計証書類その他公営企業法施行令で定める書類

### 2 審査を実施した期間

令和3年7月19日から令和3年7月21日まで。(実施日数3日)

### 3 決算書の提出時期

公営企業出納員から町長に対し決算書が提出された時期は、令和3年5月28日で地方公営企業法第30条第1項に定められている法定期間内です。

## 第2 審査の結果

審査に付された令和2年度世羅町公営企業(上水道事業及び下水道事業)歳入歳出決算書、損益計算書、剰余金計算書、剰余金処分計算書、貸借対照表、政令で定めるその他の書類(キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書、企業債明細書)について、諸帳簿並びに証拠書類と照合審査した結果、決算数値は何れも符合しており、正確であると認めます。

また、世羅町指定金融機関における現在高と一致していることを確認しました。各公営企業会計の決算は、次のとおりです。

### 1 上水道事業会計

#### (1) 決算の状況

収益的収入及び支出 (単位:円)

区 分	予 算 額	決 算 額	執行率(%)
事 業 収 益	373,482,000	375,505,916	100.5
事 業 費 用	449,495,000	416,632,732	92.7

資本的収入及び支出 (単位:円)

区 分	予 算 額	決 算 額	執行率(%)
資 本 的 収 入	229,313,000	224,129,000	97.7
資 本 的 支 出	299,607,000	276,746,322	92.4

#### (2) 経営状況

総収益 353,492,921 円に対し、総費用 389,107,028 円で、差し引き 35,614,107 円の当年度純損失となりました。

### (3) 財政状況

資産 6,219,395,869 円に対し、負債 5,065,205,746 円、資本金 96,721,902 円、剰余金 1,057,468,221 円であります。

#### ア 資産

資産は、固定資産 4,725,562,639 円及び流動資産 1,493,833,230 円で構成され、固定資産は年度末現在高 9,350,987,998 円(有形固定資産 9,160,389,613 円、無形固定資産 190,598,385 円)から減価償却累計額 4,625,425,359 円を減じた額であります。

流動資産は、現金預金 1,469,470,388 円、未収金 24,383,842 円及び貸倒引当金▲21,000 円であります。

未収金は、現年度分が営業未収金 22,423,328 円、営業外未収金 2,250 円、その他未収金 660,000 円(施設整備納付金)、過年度分が 1,298,264 円(うち施設整備納付金 420,000 円)であります。

#### イ 固定負債

固定負債は 1,352,667,610 円で、その構成は、企業債 1,323,956,610 円、引当金 28,711,000 円であります。

#### ウ 流動負債

流動負債は 209,064,988 円で、その構成は、企業債 192,061,669 円、未払金が 13,246,319 円(営業未払金 9,648,889 円、営業外未払金 3,520,100 円、その他未払金 77,330 円)、引当金 3,757,000 円であります。

#### エ 繰延収益

繰延収益は、3,503,473,148 円で、その構成は、長期前受金 5,277,210,117 円、収益化累計額▲1,773,736,969 円であります。

#### オ 資本金

資本金は、96,721,902 円であります。

#### カ 剰余金

剰余金は、1,057,468,221 円で、資本剰余金 1,062,190,381 円及び利益剰余金▲4,722,160 円であります。

資本剰余金は、負担金 969,393,296 円、工事負担金 5,854,142 円、国庫補助金 62,534,357 円、県補助金 853,729 円、工事補償金 7,657,584 円、施設整備納付金 15,897,273 円であります。

利益剰余金は、修繕積立金 75,371,917 円、減債積立金 39,189,684 円及び当年度未処理欠損金 119,283,761 円であります。

## (4) 施設の利用状況

項目	比率	備考
施設利用率	55.8 %	$\frac{1 \text{ 日平均配水量 } 2,846 \text{ m}^3}{1 \text{ 日配水能力 } 5,100 \text{ m}^3}$
最大稼働率	90.0 %	$\frac{1 \text{ 日最大配水量 } 4,591 \text{ m}^3}{1 \text{ 日配水能力 } 5,100 \text{ m}^3}$
負荷率	62.0 %	$\frac{1 \text{ 日平均配水量 } 2,846 \text{ m}^3}{1 \text{ 日最大配水量 } 4,591 \text{ m}^3}$

## (5) 財務分析比率

項目	比率	備考
自己資本構成比率	18.6 %	$\frac{\text{資本}+\text{剰余金}+\text{評価差額等}+\text{繰延資産}}{\text{総資本}(\text{資本}+\text{負債})}$
流動比率	714.5 %	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
現金預金比率	702.9 %	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}}$
減価償却率	4.2 %	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末減価償却資産}+\text{当年度減価償却費}}$
経常収支比率	90.8 %	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}}$
営業収支比率	54.5 %	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}}$
企業債償還額対償還財源比率	133.5 %	$\frac{\text{企業債償還額}}{\text{減価償却額}+\text{当年度純利益}}$
固定長期適合率	78.6 %	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債}+\text{繰延収益}+\text{資本合計}}$
自己資本比率	18.6 %	$\frac{\text{資本合計}}{\text{負債合計}+\text{資本合計}}$

## 2 公共下水道事業会計

### (1) 決算の状況

収益的収入及び支出 (単位:円)

区 分	予 算 額	決 算 額	執行率(%)
事 業 収 益	178,133,000	177,148,150	99.4
事 業 費 用	211,829,000	198,654,278	93.8

資本的収入及び支出 (単位:円)

区 分	予 算 額	決 算 額	執行率(%)
資 本 的 収 入	189,081,000	116,976,000	61.9
資 本 的 支 出	189,081,000	112,864,274	59.7

### (2) 経営状況

総収益 171,991,324 円に対し、総費用 192,821,435 円で、差し引き 20,822,054 円の当年度純損失となりました。

### (3) 財政状況

資産 4,766,367,967 円に対し、負債 4,514,568,972 円、資本金 5,000,000 円、剰余金 246,798,995 円であります。

#### ア 資産

資産は、固定資産 4,495,241,779 円及び流動資産 271,126,188 円で構成され、固定資産は年度末現在高 5,639,133,603 円(有形固定資産)から減価償却累計額 1,143,891,824 円を減じた額であります。

流動資産は、現金預金 267,731,230 円及び未収金 3,402,958 円であります。

未収金は、営業未収金 2,844,138 円、その他未収金 100,000 円及び過年度未収金 458,820 円、貸倒引当金▲8,000 円であります。

#### イ 固定負債

固定負債は 1,105,314,326 円で、その構成は、企業債 1,086,173,326 円及び引当金 19,141,000 円であります。

#### ウ 流動負債

流動負債は 77,872,581 円で、その構成は、企業債 59,948,733 円、未払金 15,037,848 円及び引当金 2,886,000 円であります。

#### エ 繰延収益

繰延収益は 3,331,802,065 円で、その構成は、長期前受金 4,117,766,955 円、収益化累計額▲786,384,890 円であります。

#### オ 資本金

資本金は、5,000,000 円であります。

#### カ 剰余金

剰余金は246,798,995円で、その構成は、資本剰余金496,625,956円及び欠損金249,826,961円であります。

資本剰余金は、国庫補助金134,913,898円、負担金347,997,734円及び受益者負担金13,714,324円であります。

欠損金は、当年度未処理欠損金249,826,961円であります。

#### (4) 施設の利用状況

項 目	比 率	備 考
施 設 利 用 率	46.7 %	$\frac{1 \text{ 日平均流入量 } 467 \text{ m}^3}{1 \text{ 日当たり処理能力 } 1,000 \text{ m}^3}$
最 大 稼 働 率	68.1 %	$\frac{1 \text{ 日最大汚水量 } 681 \text{ m}^3}{1 \text{ 日当たり処理能力 } 1,000 \text{ m}^3}$

#### (5) 財務分析比率

項 目	比 率	備 考
自己資本構成比率	5.3 %	$\frac{\text{資本+剰余金+評価差額等+繰延資産}}{\text{総資本(資本+負債)}}$
流 動 比 率	452.3 %	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$
現 金 預 金 比 率	446.6 %	$\frac{\text{現金預金}}{\text{流動負債}}$
減 価 償 却 率	2.5 %	$\frac{\text{当年度減価償却費}}{\text{期末減価償却資産+当年度減価償却費}}$
経 常 収 支 比 率	88.3 %	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}}$
営 業 収 支 比 率	13.3 %	$\frac{\text{営業収益}}{\text{営業費用}}$
企業債償還額対償還財源比率	65.8 %	$\frac{\text{企業債償還額}}{\text{減価償却額+当年度純利益}}$
固定長期適合率	95.9 %	$\frac{\text{固定資産}}{\text{固定負債+繰延収益+資本合計}}$
自己資本比率	5.3 %	$\frac{\text{資本合計}}{\text{負債合計+資本合計}}$

### 第3 審査の意見

#### 1 上水道事業会計

上水道事業については、配水管布設工事として町道東神崎2号線及び町道重永本線を実施しています。

水道料の未収金は、現年度分(3月を除く)は、1,060件(778人)5,412,587円、平成16年度分より令和元年度分までは、421件(86人)878,264円となり、合計1,481件(864人)6,290,851円になります。対前年度(1,513件(835人)5,392,195円)との比較は、△32件(29人)未収金898,656円と増加しています。

その外に過年度未収金として施設整備納付金420,000円(2名)があります。また、誘致予定施設で、町からの施設整備納付金660,000円が未収入として計上されています。

広島県水道広域連携協議会を組織し、令和5年度を目途として進めている広島県水道企業団の開始に向け、前述のこの会計の平成16年度分からの水道使用料や平成21年度分の加入負担金などの未収金と累積欠損金119,283,761円を早期に整理して健全な財務内容で企業団の開始に臨んでいただきたい。

#### 2 公共下水道事業会計

下水道事業については、栄町地区(1工区)の下水道管新設工事を実施しています。

事業計画区域107.70haの面的工事が95.70ha完了し、進捗率は88.9%であります。

工事が進捗し、公共枿が増加している中で、施工済の公共枿610箇所のうち、311箇所が接続済で接続率は51.0%となり、前年度より接続率は増加していますが、完了地区は早期に接続を行い、事業効果ができるように奨励していただきたい。

下水道使用料の未収金は、現年度分(3月を除く)は、101件(59人)645,172円、平成25年度分より令和元年度分までは、111件(13人)458,820円となっています。

未収金合計は212件(72人)1,103,992円となって、前年度(213件(78人)1,085,204円)と比較すると△1件(△6人)未収金18,788円と増加しています。

上水道事業会計と同様に収納対策を行って頂きたい。